

日時：2025年3月1日（土）14:00～16:30

場所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館7階702室

## 日本パーソナリティ心理学会第161回常任理事会議事録

出席：尾見康博理事長，松田英子副理事長，小塩真司，森 津太子，田中麻未，  
外山美樹，武田美亜，川本哲也，中村 真  
※審議事項Ⅰ（第34回大会について）のみ，佐藤広英大会準備委員長がオンライン  
参加した。

### 報告事項

#### I. 理事長挨拶

#### II. 各種委員会報告

##### 1. 機関誌編集委員会（小塩委員長）

##### (1)機関誌掲載情報

第33巻3号 2025年3月発行予定（2024年12月末までに採択された論文）

原著3編，ショート11編（うち事前登録研究，事前登録追試研究各1編）

ショート	小中学生の学力とGritの関連—遺伝環境構造から	山口 天音
ショート	日本人大学生における空想傾性とBig Fiveパーソナリティの関連	山崎 有望
原著	刑事司法に対する態度，政治的志向性，道徳基盤の関連	向井 智哉
ショート	児童の倫理的罪悪感の発達の变化と向社会的行動との関連	越中 康治
ショート	項目反応理論を用いたゲーム障害尺度の適用範囲の検討	海野 利文
事前登録研究（ショート）	事前登録研究：Big Fiveの再検査効果—参加者間・参加者内計画を用いた検討	上田 卓介
事前登録追試研究（ショート）	事前登録追試研究：愛好家サブカテゴリーを意識することはギャンブラーへの潜在的態度を寛容させるか？	小野島 昂洋
原著	恋愛関係におけるアタッチメントの無秩序性を測定する試み—日本語版成人無秩序型アタッチメント尺度	中尾 達馬
ショート	成人アタッチメントの無秩序性と恋愛関係内の暴力（加害）との関連性における性差	中尾 達馬
ショート	大学生における過剰適応と自己意識及び被影響性との関連	亀山 晶子
原著	目標追求時の動機づけを高めるには？—進捗モニタリング，目標追求段階，サブゴールに着目して—	大澤 かりん
ショート	日本でも誘惑対処方略の使用は意志力に頼るよりもセルフコントロールが苦手な兆候と見られる—Gennaro	後藤 崇志
ショート	人生早期ストレス体験と境界性パーソナリティ傾向の関連—ストレスコーピング方略を媒介要因として—	董 子瑜
ショート	防犯情報の提示が排他性および排外主義的態度に及ぼす影響	向井 智哉

第34巻1号 2025年7月発行予定（2025年4月末までに採択された論文）

原著3編，ショート4編 ※以下の資料作成後，4編の追加があったとの報告があった。

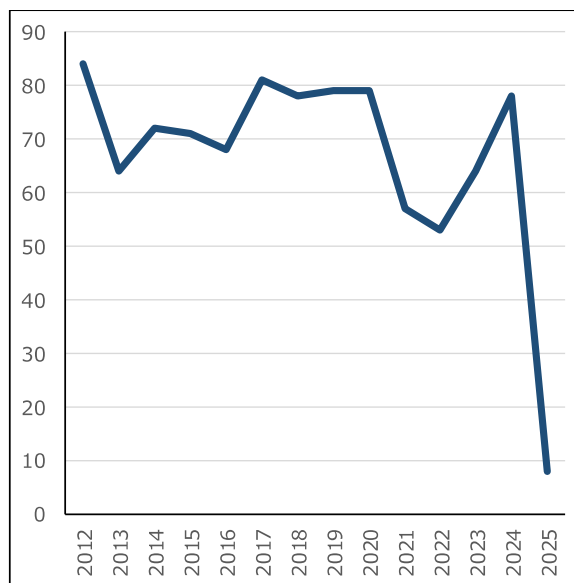
原著	2者間でのゼロサム競争中における相対的な成績は動機づけにどのように影響するのか？—競争段階と制	清水 登大
原著	Positive Solitudeがもたらす心理的効果—日本人におけるパーソナリティ特性と社会的ネットワークとの関	屋田 拓臣
ショート	自尊感情の2形態と孤独感の関連—随伴性自尊感情と本来感に注目して—	雷井 蘭
ショート	心理的リアクタンス特性の2側面—ユニークネス，集団主義との関連に着目して—	木川 智美
ショート	文化的世界観尺度日本語版作成の試み	武田 美亜
原著	完全主義社会的断絶モデルにおける完全主義的自己呈示の役割	辻本 悠
ショート	刑事司法に対する態度と素朴な自由意志信念の関係	向井 智哉

##### (2)編集状況

2025年2月現在の投稿状況は，以下の図表に記載の通りである旨の報告があった。

※以下の資料作成後，4編の投稿があったとの報告があった。

年月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ	投稿時不採択	投稿数
2024							
1	2			0	0	0	6
2	5			2	1	0	3
3	1			3	0	0	9
4	2			4	0	0	6
5	3			3	0	0	7
6	1			2	0	0	12
7	3			3	0	0	3
8	4			3	0	0	4
9	2			1	0	0	4
10	8			1	1	0	7
11	2			1	0	0	6
12	1			2	0	0	11
計	34	0	0	25	2	0	78
年月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ	投稿時不採択	投稿数
2025							
1	3			2	1		5
2	3			2			3
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
計	6	0	0	4	1	0	8



## 2 経常的研究交流委員会（森委員長）

### (1)第 33 回大会の企画について

以下の通り、開催を終えた旨の報告があった。

- ・企画シンポジウム 10月5日（土）13時30分～15時30分  
『ソーシャルメディア時代 –パーソナリティ研究から何が言えるか–』  
＜話題提供＞太幡直也先生（愛知学院大学），鈴木千晴先生（立命館大学），  
黒川雅幸先生（愛知教育大学）  
＜指定討論＞中山満子先生（奈良女子大学）
- ・MPP企画 10月6日（日）11時30分～12時30分  
『これくらいでいいんじゃない？ –心理学の授業の進め方–』

### (2)大会外企画

実施予定について、以下の通り報告があった。

- ・2025年3月30日（日）13時00分～15時00分（Zoom）  
『心理学者、キャリアを語る』  
＜話題提供＞  
井奥智大先生（大阪大学），市川玲子先生（NECソリューションイノベータ株式会社），水野君平先生（北海道教育大学），向井智哉先生（福山大学）

### (3) Summer School of Personality Science 2024（SSPS2024）への派遣

以下の通り、派遣報告と今後の募集予定について確認があった。

- 主催：European Association of Personality Psychology（EAPP）
- 会期：2024年7月29日～8月4日 会場：ベルリン（ドイツ）
- 費用：参加費は無料，サマースクール中の滞在場所と食事（朝・昼）は無料で提供。金銭的補助として、日本パーソナリティ心理学会から5万円を支給（振込済）。

※報告書を「パーソナリティ研究」に掲載予定、今後も隔年で参加者を募集。

#### (4)委員構成

2024年度で任期満了となる委員の後任(2025年度新規委員)を現在検討中である旨の報告があった。

#### (5)その他

『パーソナリティ心理学事典』(丸善出版)に掲載する「心理尺度リスト」の作成への協力について、経常的研究交流委員会のほうで学会公式サイト内の「心理尺度の広場」にある情報と整理統合し、データベース化する方向で検討したいとの意向が示され、提案通り進めてもらうことを申し合わせた。

### 3 広報委員会(川本委員長)

#### (1)定例の活動(2024/11/27から2025/2/26まで)

ウェブサイトの更新(3回)、メールニュースの配信(10回)、ML上での業務調整などの活動内容が報告された。

#### (2)委員構成

2025年度からの委員構成について報告があった。

#### (3)今後の活動予定(継続を含む)

ウェブサイトの更新、メールニュースの配信(随時)、委員分担コンテンツの更新を行っていく旨の報告があった。また、各種登録メールアドレスの新年度更新について照会があり、3月末までに広報委員長に報告して欲しい旨依頼があった。

#### (4)2025年度ヤングサイコロジストプログラム(YPP)について

以下の通り、開催予定について報告があった。

開催日:2025年10月3日(金)

会場:信州大学松本キャンパス

参加費:無料

実施企画:若手研究者の多様な実情共有と関心キーワード紹介

YPP担当委員:古賀 佳樹(久里浜医療センター)、木田 千裕(大阪公立大学)、  
加藤 伸弥(神戸学院大学)、

企画担当:戸田 晃大(企画担当代表・九州大学)、久保田 晶乃(法政大学)、  
有海 春輝(京都大学)、松崎 美奈子(大阪大学)

### 4 褒賞関連事項(外山褒賞担当常任理事)

#### (1)第33回大会優秀大会発表賞について

2024年12月3日に、メールニュースで受賞者を発表したとの報告があった。

(2)2025 年度学会賞の選考について

第 33 巻第 3 号が届き次第、理事に一次審査を依頼するとの報告があった。

(3)第 34 回大会の優秀大会発表賞について

第 34 回大会から優秀大会発表賞の別枠として、院生会員・学生会員の発表から選考する方式を導入してはどうかとの提案があった。審議の結果、提案通り、従来の受賞枠とは別に、新たに院生会員・学生会員の発表から選考する枠を設けることが承認された。

III. 日本心理学諸学会連合（尾見理事長）

2024 年 12 月 22 日に社員総会があり、日心連および心理学検定局の新体制に関する報告があった。また、同検定の受検者数が伸び悩んでおり、今後は大学院入試に活用してもらうように働きかけていきたいとの意向について説明があった。

IV. 第 33 回大会発表論文集の j-stage 掲載について（外山常任理事）

現在、掲載を依頼中で、決まり次第、会員にメールニュースで伝えるとの報告があった。

審議事項

I. 第 34 回大会について（佐藤広英 第 34 回大会準備委員長）

佐藤委員長より準備進捗状況について報告があり、1 号通信の記載内容について確認し合い、必要な修正を行った。3 月中旬に JPASS を通じて 1 号通信を会員に発送し、4 月 15 日から参加・発表申込を開始するスケジュールや、大会参加に関する諸費用、理事会、総会、懇親会など関連する催しの開催方法についても確認し合った。

併せて、大会前日（10 月 3 日）に常任理事会を開催することを申し合わせた。

II. 賛助会員用の入会申込書について（田中事務局長）

これまで賛助会員については入会申込書の書式はなく、その都度、任意の書式で申し込んでいただき、それを常任理事会で審議し、入会の可否を判断していた。来年度より、本学会用の申請書フォーマット（別紙）を使用することについて検討を行い、原案に紹介者欄（任意）を追加したうえで、2025 年度より適用することを申し合わせた。

III. 財務関連事項（武田財務担当常任理事）

2025 年度予算案（別紙）について説明があり、審議の結果、一部修正することを申し合わせた。

IV. 会員の入退会に関する件（田中事務局長）

別紙資料に基づき、入会希望者 3 名（うち、2 名は ML 審議にて承認済み）が示され、審議の結果、承認された。また、2022 年度～2023 年度会費未納者 15 名の自動退会が追認された（ML 審議にて承認済み）。併せて、宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2025 年 2 月 20 日現在、会員総数は 916 名である（今回、新規に

入会が承認された1名は含まれない)。内訳は、一般会員835名、院生会員63名、学生会員4名、名誉会員10名、賛助会員4名である。

V. 次回常任理事会の日程について

実施方法：オンライン開催

日時：2025年6月7日（土）15:00～17:00

以上